

内閣総理大臣 殿

2014年5月25日

一般社団法人大学女性協会  
会長 中村久瑠美

北ナイジェリアにおいて誘拐され、行方不明となっている少女たちを  
一刻も早く安全に解放することを要望します

一般社団法人大学女性協会(JAUW)は、1946年の設立以来、国際大学女性連盟(IFUW)の加盟団体として「女性の高等教育の向上、男女共同参画の推進、国際協力と世界平和」を目的として活動しています。2013年8月の第31回IFUW総会においては、「教育へのアクセスに危険を伴う国々で、あらゆるレベルの教育を求め、推進している女児と女性を支援する効果的な行動をとるよう自国政府に求める」決議を採択しました。国境を越えた市民・国家の協調行動の重要性を認識するからであります。

私たち、大学女性協会では、ナイジェリアにおける「ボコ・ハラム」によるキリスト教徒少女たちの誘拐を知り、少女たちの身の安全について深く憂慮し、900余名の会員こぞって人権を尊重する立場から主謀者の違法行為を強く非難します。

4月14日に北ナイジェリア、ボルノ州チボックの学校寄宿舎が襲撃され、200人を超す少女たちが武装集団により誘拐されただけでなく、1か月以上経った現在でも大部分の少女たちの行方が不明であるという事実が報道されています。

キリスト教の学校にいたことで誘拐された少女たちがイスラム教徒に改宗し、あるいは、花嫁として売られ、人身売買されているという報道を見過ごすことはできません。これら「ボコ・ハラム」が行ったとされる残虐行為は、女子差別撤廃条約に表明されている女性と少女の人権を侵害するのみならず、ジェンダーに基づく性暴力であり、決して許されることではありません。

大学女性協会は、政府はじめ関係当局が少女たち全員の一刻も早い解放と安全確保のために、ナイジェリア政府に働きかけるなど、積極的に取り組まれるよう強く要望します。

以上